

マガダン州概要



悲哀の仮面

2021年9月
在ウラジオストク総領事館

目次

1	位置	2
2	気候	2
3	沿革	2
4	人口・住民	2
5	政治	2
6	経済・産業	3
7	治安情勢	4
8	日本との関係	4

マガダン州概観

1 位置

(1) マガダン州はロシア極東の北部に位置し、北部でチュコト自治管区及びカムチャツカ地方と、南部でハバロフスク地方と、西部でサハ共和国と境を接し、東部はオホーツク海に面している。州都マガダン市はオホーツク海に面した良港である。

(2) 面積は 46 万 2,500 平方km (日本の 1.24 倍、ロシア連邦構成主体の中で第 9 位)。

(3) 日本との時差は、マガダン州が日本より 2 時間進んでいる。

2 気候

マガダン州はツンドラ気候帯に属し、地下には季節を問わず永久凍土が広がっている。夏と冬の寒暖差が激しく、夏季の気温は 30℃まで達することもあるが、1 年のうち 6~7.5 ヶ月を占める冬季には州中心部では -40℃~-50℃まで下がり、厳しい寒さとなる (年平均気温は -2.7℃)。冬季は陸路での物資輸送が困難となるため、夏の間に燃料・日用品・食料品等を輸送して冬に備える「北方輸送」の対象地域となっている。オホーツク海に面したマガダン市は州内でも相対的に温暖な地域であるが、沿岸部は濃霧や長雨に見舞われることが多い。

地勢としては穏やかな山の稜線が続き (夏でも山に残雪が残る)、多くの河川が流れる。火山 (すべて休・死火山) を背景に若干の温泉もある。

3 沿革

(1) 20 世紀初頭、コルィマー川流域で砂金が発見され、その後、金、銀、錫、タングステン、レアメタル等の鉱物資源開発がすすめられた。以降、同地域へのロシア人の入植が本格化した。1928 年にはナガエヴォ港 (後のマガダン村、1939 年にマガダン市に昇格) が建設され、採金業の根拠地として発展した。

(2) 1931 年、極東北部の開発を進めるため、マガダンに本部を置く「ダリストロイ (極東開発総局)」が設置された。その労働力として、政治犯を含む多数の囚人がマガダン経由で内陸部のコルィマー流域を中心として設置された強制収容所 (「グラーグ」) に組織的に送り込まれた。過酷な気候条件に加え、非人間的な強制労働システム「グラーグ」により膨大な数の人命が失われ、「コルィマー」の地名は旧ソ連全土でも最悪の「グラーグ」として今日なお人々に恐怖を呼び起こすものがある。「ダリストロイ」による開発は 1954 年まで続けられた。

(3) 1953 年 12 月、マガダン州が設置された。

4 人口・住民

(1) 現在の人口は 13 万 8,991 人 (2021 年 1 月) で、その半分以上の 9 万 8,913 人 (2020 年) が州都マガダン市に集中しており、州全体に広大な無人地帯が広がっている。人口は 1989 年の 39 万人をピークに激減している。

(2) 人口の 75% はロシア人で、その他ウクライナ人、タタール人、ベラルーシ人やエヴェン人 (元々の住民: 北方のエヴェン自治管区にいる)、コリャーク人等の北方諸民族も含む 105 の民族が居住している。

5 政治

(1) ペチョーヌイ州知事が 2018 年 5 月に辞任し、同月大統領令によりセルゲイ・ノソフ氏が知事代行に任命された。2018 年 9 月 9 日の知事選挙で勝利し、正式に知事に就任した。

(2) 2020年9月に実施されたマガダン州議会選挙での比例区選出議員は11名(「統一ロシア」7名(58.32%)、「自由民主党」2名(11.61%)、「共産党」1名(10.31%)、「公正ロシア」1名(7.25%)、括弧内は各党得票率)。小選挙区選出議員10名(「統一ロシア」9名、「公正ロシア」1名)。議長はアブラモフ議員(「統一ロシア」)。

(3) 2016年9月に実施された国家院選挙の各党得票率は、統一ロシア45%、ロシア自民党20%、ロシア共産党15.5%。投票率は40%。

(4) マガダン市については、2015年11月、グリシヤン第一副市長が市長となり、2020年12月に再選され、現在(2021年4月)も同人が市長を務める。市議会議員定数28、任期5年。

6 経済・産業

(経済指標の出典：連邦統計局ハバロフスク支部資料)

(1) 主要産業は、鉱業及び発電業。2020年の鉱業の生産指数は前年比102.8%。2020年における金の生産量は49.1トン、銀の生産量は573トン(数値はマガダン州政府HP発表資料)。金については、ヤノ・コリムスカヤ金鉱の開発が進められており、総額1,307億ルーブルの5件の投資プロジェクトの実施が見込まれている(マガダン州政府HP発表資料)。銀については、近年生産量が減少傾向で、2020年は前年と比べて89トン減少している。同州では、現在ヤノ・コリムスキー地区、南アモロンスキー地区、シャマニホ・ストルボフスキー鉱床及びオロエクスキー鉱床地区の開発が進められている。マガダン州は水力発電による電力供給が行われているが、ロシア統一エネルギーシステムのネットワークから独立し、サハ共和国のエネルギーシステムのネットワークしか繋がっていない。マガダン州は連邦構成主体の中で賃金水準の高い地域である(2020年の平均賃金10万2,398ルーブル)。失業率は2020年12月現在2.6%となっている。

(2) 域内総生産(GRP)(括弧内は対前年比)

	2015	2016	2017	2018	2019
域内総生産	1,246 億ルーブル (+28.5%)	1,469 億ルーブル (+17.9%)	1,568 億ルーブル (+6.7%)	1,764 億ルーブル (+12.5%)	2,136 億ルーブル (+21.1%)
域内総生産/人	85 万ルーブル	102 万ルーブル	108 万ルーブル	124 万ルーブル	152 万ルーブル

(3) 貿易関係(2020年)

貿易高	5.97 億ドル (前年比+3.5%)
内 輸出	4.96 億ドル (同+1.4%)
内 輸入	1.01 億ドル (同+14.8%)
貿易収支	+3.95 億ドル (前年-0.06 億ドル)
対日貿易高	0.54 億ドル (同+41.1%)

主な貿易国(2020年データ)：カザフスタン(2.5億ドル、46%)、韓国(1.2億ドル、15%)、日本(0.5億ドル、10%)、

中国(0.5億ドル、10%)

主な輸出商品は工業製品、食料品(魚類・海産物)・燃料である。主な輸入品は機械製造設備、化学製品、金属等。

(4) 漁業・水産加工業も盛んであり、スケトウダラ、ニシン、タラ、オヒョウ、サケ・マス類、カニ及びエビを中心にロシア国内市場だけではなく海外へも輸出している。

(5) マガダン州には鉄道はなく同州の貨物 99%を船舶輸送している。

(6) 特別経済区

1999年に「マガダン州における特別経済区に関する連邦法」が採択された。同法は2014年に変更され、経済特区制度の有効期間が2025年まで延長された。極東全体の開発、マガダン州への投資誘致及び同州での新たな産業作りを目的としており、マガダン州に本社を置く法人に対し法人税や関税面での優遇措置が与えられる。2016年の第4回東方経済フォーラムで巨大スキー場を含むスポーツ・観光コンプレックス「太陽のマガダン」の建設プロジェクトが発表され、スキー場、商業センター、客室数300室のホテル、屋内駐車場、展望台、レストラン、娯楽施設等が建設される予定。先行発展領域 (TOR)「コルィマー」(観光分野) 及び「オムスクチャンスキー石炭クラスター」(石炭開発) の創設が検討されている。

7 治安情勢

2020年の犯罪認知件数は2,649件と、前年比で8.2%減少した。犯罪認知件数の内訳は、窃盗罪が全犯罪の3割近くを占めるほか、傷害や詐欺事件などの犯罪も増加している。

飲酒状態で傷害や暴行、窃盗などの犯行に及ぶ者が多く、検挙された者の約4割が飲酒状態であった。酔客の集まるバーやレストランへ訪問する際は、深夜や単独での訪問を避け、酔客の動静に注意を払うなど被害防止に努める必要がある。

8 日本との関係

(1) 日本企業

日本企業では水産関係企業や建機メーカーがマガダン州内で活動しており、特別経済区制度の枠組みで、2016年12月にコマツがりマンセンター（注：鉱山建設機械を分解・清掃・再組み立てする施設）を設立し、現在も活動中。

2013年6月、川崎重工、ルスギドロ、RAO エネルギーシステム・ヴォストークの間で、液化水素生産プロジェクトに関する合意文書が署名され、2017年の第3回東方経済フォーラムにおいて事業実現可能性の検討継続が確認された。また、三井物産、千代田加工、ガスプロムの間で液化水素工場建設プロジェクトに関する文書が署名され、具体的な進展はないものの、将来の可能性につき検討継続中。

北オホーツク海域のマガダン沖大陸棚の石油・天然ガス開発プロジェクト（マガダンⅠ～Ⅳ）のうち、マガダンⅡ、Ⅲについては、日本企業が関心を有しているが、現時点でどの程度進展しているのか不明である。

(2) 文化

2009年7月、マガダン市70周年祭とタイアップする形で映画館「ゴルニャック（鉱夫）」（元々日本人抑留者が建設したもの）にて日本映画祭を開催、日本映画4本を上映（同州奥地（マガダン北方約500km）のヤーゴドノエにおいても特別上映）。

2010年7月、マガダン日本文化デイズを開催、日本アニメ上映会（同州の地方都市であるウスチ・オムチュクでも上映）、着物着付講習会、ミニ日本展示会、日本に関するプレゼンテーションを実施。

2011年9月及び2013年8月、2015年9月、2016年10月に「ゴルニャック」映画館にて日本映画祭を開催し、2018年10月には映画上映の他、囲碁やあやとりのデモンストレーションを含む日本文化デイズを開催した。また、同映画館の広報・文化事業の振興への貢献に対し、2018年外務大臣表彰が授与された。

(3) 日本語教育

日本語の専門教育は北東国立大学（同大学には日本人の日本語講師が採用されている）及び第 24 番ギムナジウムにて行われている。日露青年交流事業において、北東国立大学から過去 5 年で 6 名の学生が日本を訪問し、日本の大学生と交流を行った。

(4) 自治体交流

マガダン市は日本との姉妹提携に関心を有しているが、実現していない。

(5) 日本人抑留者

(ア) 第二次世界大戦終了後、ソ連により抑留された旧日本軍人等のうち 3,000 人以上がマガダン周辺の収容所に送られ木材伐採や建設作業等の労役に従事した。

(イ) 1992 年、抑留者埋葬地 2 カ所（うち 1 カ所はマガダン市内の「使徒降臨教会」敷地内）で厚生労働省による遺骨収集が行われ 49 柱が収集された。この他、マガダン中央バスターミナルから約 4 キロ離れた海岸の工場敷地内にも埋葬地が存在するとされる。

(ウ) マガダン市公園においては、日本人抑留者が 1949 年の帰国時に建設したとされる木造の「あずまや」が復旧される形で「日本並木道」が建設され、2018 年 7 月開会式が行われた（同開会式は「ロシアにおける日本年」の行事にも登録された）。

(6) その他

1939 年 12 月、マガダンからウラジオストクに向かっていたソ連輸送船インディギルカ号が北海道宗谷岬付近で座礁沈没しマガダンの漁業労働者や移送中の囚人など約 700 人が犠牲となったが、現場近くの猿払村では官民一体となって救助にあたり暴風雪の中で約 400 人を救出した。現在、猿払村の海岸には慰霊碑が建てられている。

(了)